

第2章 中心市街地グランドデザインの概要

1 まちの将来像

中心市街地グランドデザインにおけるまちの将来像を以下のとおりとします。

【まちの将来像】

小牧山や中心市街地の魅力を活かし歩いて楽しめる活気あるまち
 ~歴史・文化を感じながら、にぎわいと交流が生まれるまちへ~



将来像の背景

◆小牧山

本市のシンボルとなる代表的なランドマークであり、また、重要な歴史的価値を持つ小牧山を貴重な地域資源として活かす将来の姿を描きます。

◆中心市街地の魅力

こども未来館や中央図書館など人が集まる施設と高い生活利便性を活かし、子育て世代を含めた若い世代にとって魅力のあるまちづくりを推進します。

◆歩いて楽しむ

鉄道の利便性、交通結節点である駅と主要な都市機能がコンパクトに集約された中心市街地のポテンシャルを活かすとともに、脱炭素社会の実現や長寿・健康を目指すために、歩いて楽しめる中心市街地の形成を目指します。

◆歴史・文化

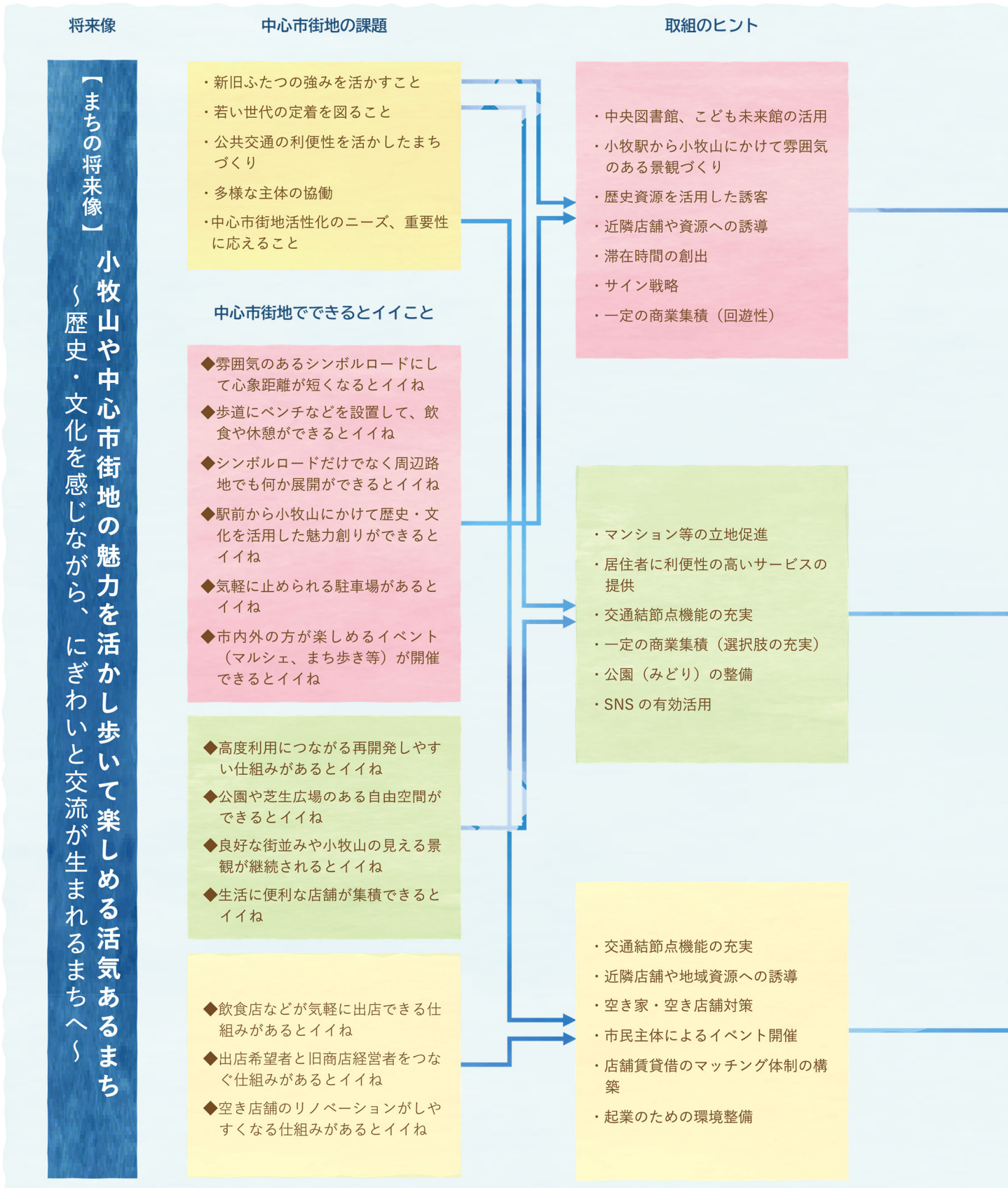
中心市街地の歴史・文化資源を活用し、歴史・文化を身近に感じられるまちづくりを目指します。

◆にぎわいと交流

訪れる人、住む人が増えることによりまちのにぎわいは創出されていきます。人々が互いに交流でき、多様な主体によって推進されるまちづくりを目指します。

2 中心市街地グランドデザインの体系

まちの将来像を実現するため、中心市街地の課題等を踏まえ、まちの目指す姿を設定し、どのようなまちづくりを進めていくとよいか目指す姿ごとに施策として整理します。



目指す姿と取組方針

施 策

訪れたいまち

地域資源や景観などの魅力を
活かし、歩いて楽しむことが
できるまちづくり

施策1-1
こども未来館・中央図書館等の
魅力を活かしたにぎわいの形成

施策1-2
歴史・文化資源の活用

施策1-3
歩いて楽しい歩道ネットワ
ークの構築

住みたいまち

都市機能や生活利便性の高い
施設が集積し、快適に暮らせる
ことができるまちづくり

施策2-1
まちなか居住の推進

施策2-2
緑とやすらぎのあるまちの創造

施策2-3
地域で支え合うまちの創出

活力があるまち

特色のある店舗等が集積し、
新たな発見や出会いがあり
チャレンジを応援するまちづくり

施策3-1
リノベーションまちづくりの
推進

施策3-2
多様な人が主役となりにぎわい
を生み出す環境の創出

施策3-3
利便性の高い公共交通ネット
ワークの充実

3 中心市街地グランドデザインのゾーニングの考え方

中心市街地には、小牧駅周辺に公共施設や大規模商業施設、既存商店街などにぎわいや交流の核となる都市機能が集中し、本市のシンボルである小牧山に近づくにつれて歴史ある社寺が集まり趣のある景観が広がっており、小牧駅と小牧山を結ぶ道路は市を代表する象徴的なシンボルロードとして整備が進められてきました。この現状を活かして中心市街地をゾーニングして将来イメージを設定することで、利便性の高い市街地としての特性を持ちながら、本市ならではの歴史・文化が感じられる中心市街地の形成を目指します。

都市機能集積ゾーンは、近現代の都市機能として、交通結節点をはじめ、文化施設、子育て支援施設など目的を持って利用される公共施設やイベント空間など滞留する空間が多く分布しており、にぎわいを創出するゾーンと位置づけます。

歴史・文化ゾーンは、緑豊かな自然環境と史跡や神社仏閣が分布するなど落ち着いた景観が広がり、都市機能集積ゾーンとは異なる趣を持っており、小牧山やれきしるこまきに訪れた人々がその途中でまちなかを散策し、歴史・文化を感じることができるゾーンと位置づけます。

